順天堂医事研究会報告
第百十一号
毎月十五日二回刊行

著原達文会究研事医堂天順

穿腹術
Paracentesis abdominis

外科手術中最古時代ヨリ行ハレタルモノニシテ

医学者
佐藤勤也述

パセリ而ノ殊ノ精密ノ古代ノ方法ヲ記載報告シタルハ有名

外科新聞記者ツ

医アスクレピアデス氏ガレス氏等モ此術ヲ研究ヲ称賛ノ声ハ非難ノ声ト相半

氏アスクレピアデス氏ノ著書ヲ見ノ又上古ノ名医アレキシ

氏アウェリアデス氏ノ著書ヲ見ノ又上古ノ名医アレキシ
穿腹術

穿腹スリ位置ハ解剖学上ヨリ論ズルハ白線ニ於テアルモ最も適當ニシテ且ツ
安全ナル吾人ノ已知恐る所ナリ蓋シ白線ヲ穿刺スレバ貴要ナル器臓及び血
管ノ損傷ヲ避ケルモ容易ナルコ由ルナル腸管ノ腹壁ヲ密着シタル時ハ例外
トズ然レズ耻骨縫合ノ直上ニ於テハ膀胱ヲ損傷スルノ恐レアリ且ツ精密ニ正中
穿刺セザレ腹動脈ヲ破ルノ危険アリシノトシニ氏ノ年報(19xx S.14)ハ

行と第三回目ト於テ多数ナルレズ血液ヲ混セザル血清ヲ摂取セシメ患者ハ

頚＝衰弱シテ内乏血ヲ観微ヲ呈シ翌日ノ未後＝至テ死亡セリ剖観ノ際シテ下腹

腔＝大量ノ凝血ヲ見死因＝上腹動脈ノ一枝異常ナル經過アリシテヲ認観

分岐シシル由リシテ発見セリ即チ＝ポウバリタル薬ヲ上＝於テ外腸骨動脈ヲ

＝腹輸チ超過シ白線ノ側方＝達シ其外腸＝走レリノ初＝施シタルニ回＝穿腹

＝於ケル瘢痕ハ白線ノ正中央ニ存セシモ第三回ノ者ハ僅微ノ検査＝阻＝テラ

正中線ヨリ稍側方＝偏倚シタテガ為＝遂＝上腹動脈ノ一枝ヲ損傷スルニ至レリ
四三七 著原告報会究研事 醫堂天順

甲

吾人若し或る原因＝ヨリ白線＝於テ穿刺シ能ハザルキハ何レノ位置ス撰づべキ

乙

ヨリ脊骨＝向テ水平＝第二線＝引キ兩線＝相交又スル部＝レナリ

丙

此線ノ中央ヨリ下ルヨリノ三分ノニ部ト腸骨ノ前上棘突起トノ間＝第二線サ

画キ其中央ヲ穿刺スルニ在リ然レ＝ノノ上ニ於ケルノ點ハ撰ズレル

任ノモノヲ作リ

骨ノ前上棘突起間＝豆レル直線ノ中央部＝レナリ此部＝於テハ上腹肢脊損傷ス

ルトナリ但シ其左側テ撰ズレ奴ノ理ハ施術ノ際醫士＝ハ普通患者＝直前＝アリ故

者＝左側＝醫士＝右側＝對スル＝以テ醫士＝右手＝以テ容易＝動作＝シ得ベキ

由ルナリ

モノノ氏ノ點ハ有名ナル解剖家＝取テ以テ佳ナリストス所＝シテヒトトル氏

二
Langenbeck B 41, H 4, 1891

Archiv für Klinische Chirurgie

(1)

(1)

(1)

(1)